

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅱ-1-4 治安対策の推進
---------	-----------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	捜査第一課長 小谷 直也	電話番号	0852-26-0110（代）
----------	--------------	------	-----------------

事務事業の名称	凶悪犯罪等対象事業		
目的	(1) 対象	県民	
	(2) 意図	県民の体感治安に直接影響を及ぼす凶悪犯罪を検挙することにより、県民の生命・身体・財産を守る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 凶悪犯罪等発生時、初動捜査の徹底及び、科学捜査、情報分析を駆使した犯人の早期検挙を図る。 ● 県下捜査員の捜査能力の向上を図るため、各種教養、研修会の充実を図る。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			凶悪犯罪検挙率	目標値		100.00	100.00	100.00	
		凶悪犯罪の認知件数に対する検挙件数の割合	実績値	100.00	82.40	82.40	110.00		%
			達成率		82.40	82.40	110.00		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値							
		実績値							
		達成率						%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	58,835	59,434
うち一般財源(千円)	58,835	59,434

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 凶悪犯罪は（殺人・強盗・放火・強姦）の発生は、平成26年中は20件、検挙件数は22件であり、平成27年6月末までは、発生は4件、検挙件数は6件である。
- 凶悪犯罪検挙率は、平成26年中が110%であるのに対し、平成27年6月末までが、150%である。
- 凶悪犯罪発生時、徹底した現場鑑識資料の採取、多角的な情報を分析する等、各種捜査を効果的に実施している。
- 県下の捜査員に対する巡回教養、研修会等で、具体的な教養を行い、個々の捜査能力向上を図っている。
- 過去に発生した殺人事件等、未解決事件が残っている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

過去の実績で、100%に達していない年もあるが、昨年は110%と向上しており、過去の事件を、粘り強く継続した捜査を実施したことにより検挙率が向上したといえる。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 凶悪犯罪については、過去に発生した未解決事件もあり、県民の犯罪被害に対する不安感が低いとは言えない状況にある。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 過去に発生した殺人事件などの未解決事件があるため。
- ③原因を解消するための「課題」
- 未解決事件について、継続捜査を徹底する。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 引き続き、初動捜査の徹底、現場鑑識、科学捜査、情報分析システムの活用により、凶悪犯罪を早期に検挙する。
- 未解決事件の解決に向け、情報収集等各種捜査活動を継続させる。
- 初動捜査体制の強化、捜査員の現場執行能力の向上を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）